

2022 (R4) 年度 親と子の都市と建築教室 (第 22 回) 実施報告
(大阪市 住まいと暮らしのワークショップ 2022)

報告者：近畿支部常議員 若本和仁 (親と子の都市と建築教室 実行委員長)、大住和正、正野和司

主催 : 大阪市立住まい情報センター・(一社)日本建築学会近畿支部・(公社)大阪府建築士会
今年のテーマ : “おうちではたらく”まちをつくろう ～人生はもっと自由だ～
開催日時 : 1日目 7月31日(土) 13:30～15:30 オンライン開催
2日目 8月6日(土)・7日(日) 10:30～16:30 対面開催 (両日とも同一内容)
対象等 : 小学生 (保護者とご一緒に)、定員 40 名 (2日目は 20 名ずつ)、参加無料
参加者数実績 : 1日目 30 名、2日目 12 名、14 名 (キャンセルがあり定員以下となった)
スタッフ :

住まい情報センター 上田梓紗・本藤記子

建築学会 大住和正・佐藤裕一・正野和司・若本和仁

建築士会 浅井駿平 (全体統括)・増田裕一朗・中北力・規工川和史・室木裕・仙入洋

イベント OB 藤原こうき・仲西樹生・山本耕司

学生ボランティア (23 名)

リーダー¹ : 小池駿輝 (京都大)、近藤佑哉 (近畿大)

サポート² : 岡田哲 (近畿大、2-1,2-2)、藤本結花 (近畿大、2-1)、笹野貴子 (近畿大、2-1)、中山愛花 (近畿大、2-1)、鈴木萌子 (近畿大、2-2)、今井敦登 (近畿大、All)、松井みのり (近畿大、1,2-1)、森貴匡 (近畿大、2-2)、藤田迅 (大阪大、1,2-2)、船見慧 (大阪大、1,2-2)、施奕柯 (大阪大、1,2-2)、河埜 昂平 (関西大、1,2-2)、小林夏実 (関西大、2-1)、竹内美樹 (関西大、All)、崔家榮 (関西大、All)、西村丈 (関西大、2-1)、藤近あづみ (関西大、2-1)、溝口歩 (関西大、2-2)、横谷みづほ (関西大、All)、伊藤 一成 (関西大、2-1,2-2)、岡島まさはる (大阪公立大、2-2)

今年で 22 年目となる大阪市立住まい情報センター (以下で「センター」と (公社)大阪府建築士会との共同主催によるイベントである。コロナ禍で昨年、一昨年とオンラインのみでの開催となっていたが、今年度は 3 年ぶりにセンターのホールに子どもたちが集まって作業する機会を設けるため、連続 2 日の作業を、以下のように実施した。

1 日目 (7 月 31 日) オンライン学習で設計図の作成。参加者全員が参加。

2 日目 (8 月 6 日、7 日) センターのホールで段ボールを使って子どもが入ることのできる大きさの建物を作り、それらをまちに見立てるワークショップを実施。参加者を 2 班に分けて作業を 1 日/班とすることで、会場の密を避けつつ、例年通りの約 40 組の参加を受け入れた。

¹ イベントまでの打合せへの参加と準備作業、イベント時のプレゼンテーションやサポートスタッフへの指示等を担った。

² イベント当日のサポートを担った。「All」は 3 回のイベント全てに参加、「1」は 1 日目、「2-1」は 2 日目の 1 回目、「2-2」は 2 日目の 2 回目に参加したことを示す。

<1日目：オンライン学習>

最初にまちと家に関するクイズ形式のレクチャーをリーダーから行い、今回のテーマやまちに関するイメージを参加者に持ってもらった。続いて参加者は、みどりチーム（緑豊かな住環境、小池リーダー）とあおチーム（水辺の住環境、近藤リーダー）に分かれ、リーダー及び学生サポート、大人スタッフによるオンラインでのサポートのもと、テーマに沿った家のスケッチを作成した。

<2日目：対面でのワークショップ>

密を避けるため、2日に分けて開催した。両日ともみどりチームとあおチームの2チーム（それぞれ10人が上限）に分かれて、それぞれの家とまちを作成した。参加者1名に対して学生ボランティアまたは大人スタッフ1～2名がサポートにつき、それぞれのスケッチを元にした家を「建築」した。また、プログラム後半には、リーダー主導のもと、みどりとあおの環境を会場全体に作り込み、全体をまちとして完成させた。川上から川下そして海へと繋げることで、チームの連続性も表現することに成功していた。

今回は人数に制限を設けたことで、敷地を広く設定することができ、大作が多く生み出されるとともに、隙間を利用して川や橋といったインフラも構築され、非常にまちらしい空間が形成された。

例年行われる賞の授与については、対象が2チームであったことから、「わくわく work 賞」と「自由なまちで賞」のいずれかが各チームに授与されることとなり、下表の通りとなった。

チーム	8月6日	8月7日
みどり	わくわく work 賞	自由なまちで賞
あお	自由なまちで賞	わくわく work 賞

参加者が限定されたことから、講評では全ての作品をスライドで紹介し、各チームの受賞理由を紹介した。

なお、感染防止の観点から、道具の貸し借りは行わず（個人専用として貸し出した）、ホールでの飲食は禁止（水分補給は廊下で行い、昼食はセンターに入居する建物の外で摂ることとした）、使用後は消毒を徹底した。

参加者の満足度については、センターによるアンケート結果（別紙）をご覧いただきたい。

オンラインでのイベント実施のノウハウも蓄積されてきており、参加者も慣れている方が多く、1日目の学習とスケッチはスムーズに行われた。また、2日目の対面での工作で、子どもにとってはかなり大きな立体物を作り上げ、他の参加者の作品と並べて「まち」を形成した。こうしたさまざまな学びと異なるスケールでの作業はまさに建築的であり、学習と啓発の効果は大きいと考えられる。アンケート結果からもそのことがうかがえる。また、参加した学生ボランティア（建築を学ぶ学生だけでなく、ボランティアサークルの学生もいた）にとっても、非常に良い機会になったと思われる。

こうした成果は、現場の準備やリハーサルを含め3月下旬から10回ものZoom会合（19～21時）等を行った結果であるが、学生ボランティアについては、報酬のあり方など待遇について今後検討して必要があると考えられる。

【プログラム概要】

<1日目：オンライン学習>

- 1) 各チーム：自己紹介や雑談によりアイスブレイク
- 2) 全体：開会挨拶
- 3) 全体：オンライン紙芝居（山本さん（イベントOB））
- 4) 全体：スライド学習「まちってなんだろう??」（リーダー：京都大 小池さん）
- 5) 全体：スライド学習「おうちではたらくってどんなだろう??」（リーダー：近畿大 近藤さん）
- 6) 全体：作業の説明
- 7) 各チーム：スタッフ自己紹介
- 8) 各チーム：スケッチ作成
- 9) 各チーム：1分/人でスケッチをプレゼンテーション
- 10) 全体：リーダーによるチームの様子の発表
- 11) 全体：閉会挨拶、次回の案内、集合写真撮影（スクリーンショット）

<2日目：対面でのワークショップ>

- 1) 全体：開会挨拶、アイスブレイク、注意事項の説明（道具の使い方、感染予防等）
- 2) 全体：組み立て
- 3) 昼食（この間、会場となるホールは施錠）
- 4) 全体：組み立て
- 5) 全体リーダーより各チームの作品発表
- 6) 講評と賞の授与
- 7) 集合写真
- 8) 閉会の挨拶
- 9) 組み立てた家の解体・後片付け

参考資料：大阪市立住まい情報センターによる受講者アンケート

1日目（7/31（日））と2日目（8/6（土）・7（日））とも同じ内容で実施し、それぞれで集計している。



7月31日の様子



8月6日の様子



8月7日の様子